

現象学的倫理学と事実と価値の融合 ——マードックからハイデガーへ——

池田喬（明治大学）

現象学的倫理学は単なる経験の記述であり規範を提示することができないと批判されてきた。本発表ではこの批判が前提している事実と価値（記述と規範）の二元論を問い直し、むしろ両者の融合を倫理学の主題とするプロジェクトに現象学的倫理学を位置付ける。まず、事実と価値は融合するという見解を、I. マードックの議論を例にとり、現象学外部の倫理学史から提示する。彼女は事実と価値の融合を倫理学の主題とするためには、道徳的概念を、道徳判断に含まれる価値や当為だけでなく、「人生の全体的ヴィジョン」に関する言語へと拡張しようとし、そのための言語的資源を部分的に現象学的伝統に求めていた。彼女が中でも共感を覚えていたのは M. ハイデガーだが、彼女のハイデガー論は未完に終わった。本発表では、彼女に代わって、『存在と時間』における世界内存在の現象学を事実と価値とが融合する道徳経験の分析として再構成する。